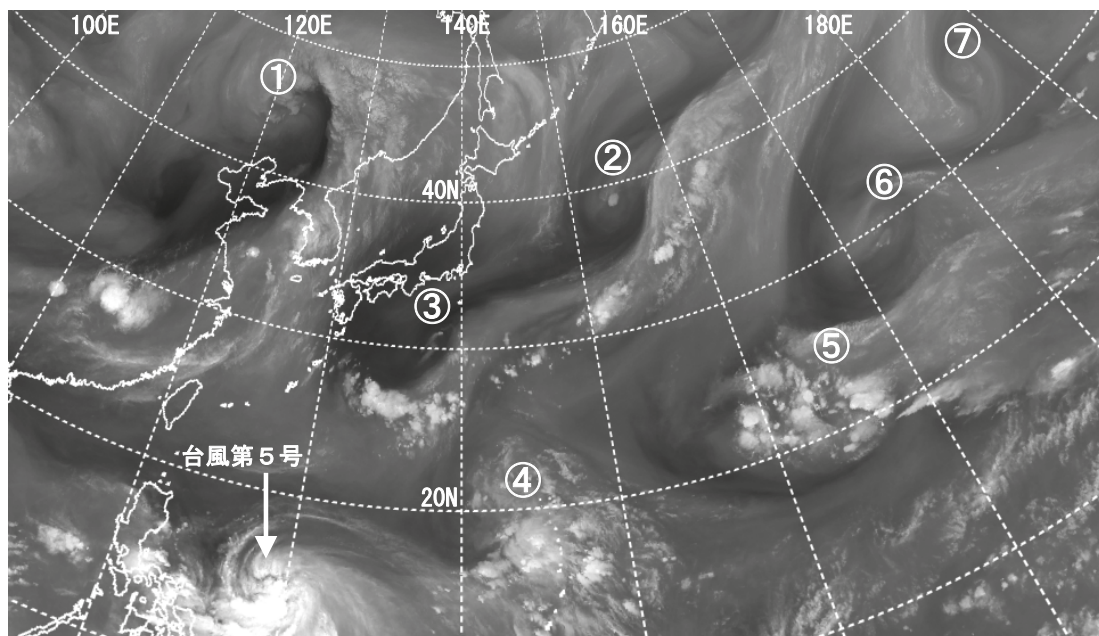




今月のひまわり画像—2023年7月

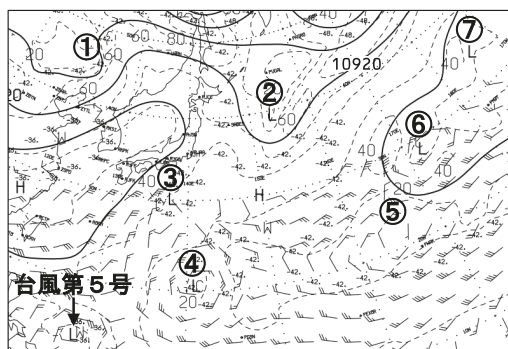
上層寒冷低気圧の渦



第1図 2023年7月23日09時（日本時間）の衛星水蒸気画像。記号①～⑦については本文参照。

第1図は、2023年7月23日09時（日本時間）の北西太平洋の衛星水蒸気画像で、第2図は、第1図と同時刻の高層天気図の例として示したアジア太平洋250hPa高度・気温・風天気図である。第1図では、①～⑦及び台風第5号の低気圧性循環の渦が確認でき、第2図では、①～⑦は上空に寒気を伴い、①と②は上空のトラフ（気圧の谷）に対応していた。③～⑦は地上に低気圧を伴わない上層寒冷低気圧（UCL：Upper Cold Low）で、③は南へ、④～⑦は西～南西へ進んでいた。③は、日本付近をトラフが深まりながら通過すると共にチベット高気圧が日本海付近に張り出し、偏西風が大きく蛇行した結果、22日頃にトラフから切離されて形成された。④～⑦は、10日から15日頃にかけてアリューシャンの南でトラフから切離されて形成されたものと考えられる。同時刻に、これだけ多くの上層寒冷低気圧が確認できるのは珍しい。

上層寒冷低気圧の周辺では、大気の状態が不安定となっており対流活動が活発となり局地的な大雨をもたらすほか、台風の発生・発達に寄与することがあるため、



第2図 第1図と同時刻のアジア太平洋250hPa高度（実線）・気温（6℃毎に数値で記載）・風（破線、矢羽根）天気図。記号①～⑦については本文参照。

上層寒冷低気圧の動向の監視は防災上の観点から重要となっている。特に夏季には、上層寒冷低気圧は日本付近に接近し、長寿命で動きが遅いことから局地的な大雨が数日間続くこともあり、留意が必要である。

（気象庁大気海洋部気象リスク対策課 西 峰雄）